



ブライツ・アセット株式会社

米国債金利はどこまで下がる？

ボンド・トレードは金利じゃなくて価格

米国債金利の低下は、金利予測とかいうよりも株式の損失補填にはこのぐらい買わないといけなかったということ

マーケティングセールス部

2020/03/09

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第 3102 号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP：www.brightasset.co.jp

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

ボンド・トレードは金利じゃなくて価格

アメリカの株式が下げ始めてから、長期金利が急激に下がっています。いろんな方の、「10年金利が1%切ったとか、0.5%になったとか、これは行き過ぎた金利レベル」というコメントが見受けられますが、米国債の金利は、金利で見ると国債の価格で見る方が大切です。

アメリカ株は2月19日の引けから、先週金曜日（3月6日）引けまでに、おおむね12.5%下落しました。一方国債先物ですが、10年債で価格で5~7%上昇し、15年超のロングボンドで10~16%上昇しました。

株式での損失を埋めるために米国債を購入する場合、10年債かロングボンドを購入すれば損失を手当てできたこととなります。つまり、国債の金利レベルは、金利というよりも債券価格で動いたとみたほうがいいでしょう。実際のオペレーションは、もっと短期の国債とか先物も使いこれほど単純なものではありませんが、こうした取引で損失をカバーすることが可能です。利下げを催促するというよりも損失をカバーするためにはこのぐらい国債を買って価格上昇の恩恵を受けないといけないということです。株価がまだ下がるようであれば、国債金利はまだまだ下がりそうです。先週の緊急利下げは余計だったのかもしれませんが。

参考までに、東京時間のナイトセッションのレベルも添付しておきます。

2/19 引けからの主要株価指数先物と国債先物の価格下落率/上昇率（対 2/19 日）

シカゴ先物	2/19 終値	3/6 NY16:00	下落率/ 上昇率	3/9 東京	下落率/ 上昇率
S&P500 (E-mini)	3387.25	2964	-12.5%	2819	-16.8%
DOW30 (E-mini)	29337	25789	-12.1%	24567	-16.3%
NASDAQ (E-mini)	9733.5	8503.3	-12.6%	8093.3	-16.9%
10年国債先物 (T-Note)	130.95 (1.49%)	137.9 (0.64%)	5.3%	139.14 (0.50%)	6.3%
10年国債先物 (Ultra 10yr)	144.70 (1.57%)	155.9 (0.71%)	7.7%	159.05 (0.50%)	9.9%
30年国債先物 (T-Bond)	162.03 (1.73%)	179.69 (0.88%)	10.9%	187.06 (0.61%)	15.4%
30年国債先物 (Ultra T-Bond)	194.53 (2.03%)	225.19 (1.25%)	15.8%	235.2 (0.99%)	20.9%